

平成16年3月10日

各地区連盟 御中
各加盟地方団体 御中

財団法人 日本野球連盟
事務局長 後勝



2004年度規則改正に伴う件

平素より当連盟各種事業にご支援ご協力賜り厚くお礼申し上げます。
さて、2004年度野球規則改正に伴い、別紙のとおり資料を送付致しますのでご確認下さい。

記

関係資料

1. 2004年度改正規則改正
2. 2004年度規則適用（取扱い）
3. 野球規則改訂に伴う公式記録のルールについて

以上

2004年度規則適用（取扱い）

条文改正

条文	現 行	改 訂
5.09 (b) (注) 球審の妨害	盗塁の阻止、走者に対する刺殺行為に限定していた。	「球審が捕手のすべての送球（打球処理を除く）を妨害した場合」とする。つまり、投手への返球行為も含む。なお、第三ストライクを捕手が捕球できなかったときの捕手の守備行為を妨害したときも含む（ボールデッド、打者アウト、走者帰塁）。
7.05 (a) (注一) 打球が鳥または動物に触れる	インフライトの打球が飛んでいる鳥に触れた場合、ボールインプレイであるが、インフライトの状態ではなくなる。	インフライトの打球が飛んでいる鳥に触れた場合、ボールインプレイで、インフライトの状態は続く。インフライトの打球がプレイングフィールド上（地上）の鳥または動物に触れた場合、ボールインプレイであるが、インフライトの状態はなくなる。
7.07 (注二) 捕手またはその他の野手による妨害	三塁走者が盗塁、スクイズプレイなどで得点しようとしたときに、捕手または野手によって打撃妨害が発生したとき、盗塁行為のない他の走者は塁にとどまる。	三塁走者が、盗塁、スクイズプレイなどで得点しようとしたときに、捕手または野手によって打撃妨害が発生したとき、すべての走者はバークによって盗塁行為の有無に関係なく、一個の塁を進める。
7.08 (i) (注) 逆走した打者走者	打者走者が逆走した場合、本塁を越えたらアウトとなる。	打者走者が逆走した場合、本塁に達したらアウトとなる。

規則適用上の解釈

2.44、7.05 (g) プレイおよびプレイの介在	<p><u>野手の偽投、送球するマネ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 「プレイの介在」としていた。 * 「その他のプレイ」としていた。 * 内野手が打球をはじいた場合、前に落としたときは「最初のプレイ」としていた。 	<p><u>野手の偽投、送球するマネ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 「プレイの介在」とは見ずに、その後のプレイを「最初のプレイ」とする。 <p><u>内野手が打球をはじいた場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 審判員の判断で、内野手が打球をはじいてすぐ拾った範囲がワ
-------------------------------	---	--

		<p>ンステップ（リーチの範囲内）のときは、「最初のプレイ」とする。</p> <p>なお、走者をアウトにしようとする守備行為とは、内野手が実際にプレイを行った行為（送球を果たす行為、触球行為、触塁行為、走者をアウトにしようとする走者に向かっていく行為）をいう。</p>
6.06 (c) (原注) 打者のスイングの余勢、振り戻しのバットが捕手に触れる	打者のバットが捕手または投球に触れたため、捕手が確捕できなかったときは、ボールデッドとなり、走者帰塁、打者はペナルティなし。	打者のバットが捕手または投球に触れたときに、捕手が送球しようとしたときに捕手に触れた場合も含む。ボールデッドとなり、走者帰塁、打者はペナルティなし。
7.06 (a) 逆走中のオブストラクション	特に明確な取り決めはなかった。	打者走者が本・一塁間で本塁へ向かって逆走しているときに、オブストラクションが発生しても、守備側の行為が故意でない限り、ボールインプレイとする。
7.06 (b) オブストラクション 外野への打球のとき	外野への打球の際に、打者走者が一塁に達するまでにオブストラクションが発生しても、当該走者に対するプレイが行われていないときは、7.06 (b) 項扱いとしていた。	取り扱いに変更なし。 外野に打球が飛んで、打者走者に対するプレイが行われているとき（たとえばライトゴロのケース）、オブストラクションが発生した場合は、7.06 (a) 項扱いである。
7.06 (b) オブストラクション 野手が走者の視界を遮る行為	<p>① 走者がタッグアップしているとき、野手が走者の前に立ち視界を遮る行為をした場合</p> <p>② 野手が走者の前に立ち、球を保持している投手板上の投手への視界を遮る行為をした場合</p> <p>通常、その野手に注意をしていた。</p>	①、②ともアンフェアな行為であることから、野手の行為によって走者に不利益（アウト）があったと審判員が判断した場合、7.06 (b) 項のオブストラクションを適用する。
8.05 (d) 走者のいない塁へのアピールプレイ		投手板に触れている投手が、アピールするためであれば、走者のいない塁に送球してもボークではない。投手はアピールプレイのために投手板をはずす必要はない。（確認）

以上

平成16年2月24日

日本野球連盟 御中
日本学生野球協会 御中
全日本大学野球連盟 御中
日本高等学校野球連盟 御中
全日本軟式野球連盟 御中

日本アマチュア野球規則委員会

野球規則改訂に伴う公式記録のルールについて

2004年より、野球規則7.07 [注二] が改訂されます (別紙参照)。
これに伴い、7.07適用の際の公式記録の付け方について、プロ野球記録部とも相談の結果、プロ野球と同様、アマチュア野球界においても以下のとおりと致しますのでご連絡申し上げます。

〔原則〕

7.07により打者が打者走者となって一塁に進んだ場合、それによって押し出される走者はすべて打者の打撃妨害による進塁、押し出されない走者はすべてボークによる進塁となる。ボークによる進塁の場合はすべて自責点の対象となる。(但しアウトの機会による)

〔具体的適用〕

(1) 打者について

打者は打撃妨害により一塁へ (打撃妨害発生のため捕手に失策が記録される)。その打者が得点しても自責点にならない。(下欄 (2) ①～④すべてのケースに共通)

(2) 走者について

①走者満塁のとき7.07が発生した場合

すべての走者は、打者が一塁へ進んだために、打撃妨害による進塁。打者には打点が付く (10.04 (a)) が、三塁走者の得点は自責点にならない。

②走者一・三塁のとき7.07が発生した場合

一塁走者は打者が一塁へ進んだために、打撃妨害による進塁。三塁走者はボークによる進塁 (得点)、無死または一死の場合は自責点となる。打者の打点はなし。

③走者二・三塁のとき7. 07が発生した場合

二・三塁の走者はバークによる進塁、無死または一死の場合は自責点となる。打者の打点はなし。

④走者三塁のとき7. 07が発生した場合

三塁走者はバークにより進塁（得点）、無死または一死の場合は自責点となる。打者の打点はなし。

<別 紙>

関連野球規則（参考）

規則 7. 0 7

三塁走者が、スクイズプレイまたは盗塁によって得点しようと試みた場合、捕手またはその他の野手がボールを持たないで、本塁の上またはその前方に出るか、あるいは打者または打者のバットに触れたときには、投手にボークを課して、打者はインターフェアによって一塁が与えられる。このさいはボールデッドとなる。（従来通り）

[注二]

すべての走者は、盗塁行為の有無に関係なく、ボークによって一個の塁が与えられる。（2004年から改訂）

規則 10. 0 4 (a)

打者が、安打、犠牲バント、犠牲フライ、または内野のアウト及び野手選択によって走者を得点させるか、あるいは満塁で、四死球、妨害（インターフェア）および走塁妨害（オブストラクション）によって打者が走者となったために、走者に本塁が与えられて得点が記録された場合には、打者に打点を与える。（従来通り）

二〇〇四年度 野球規則改正

日本野球

規則委員会



(1) 五・〇九(b)【注一】「本項での、「捕手の送球動作」とは、盗塁を阻止しようとするか、塁上の走者をアウトにしようとする捕手の送球動作に限られる」を削除し、【注二】を【注】とする。

(2) 七・〇五(a)【注一】の3行目「インフライトのフェアの打球または送球が、鳥に触れた場合は、ボールインプレイであるが、インフライトの状態でなくなる」を次のように改める。
「送球またはインフライトの打球が、鳥に触れた場合は、ボールインプレイでありインフライトの状態は続く。しかし、プレイングフィールド上の鳥または動物に触れた場合は、ボールインプレイであるが、インフライトの状態でなくなる。」

(3) 七・〇七【注二】を次のように改める。
「すべての走者は、盗塁行為の有無に関係なく、ボークによって一個の塁が与えられる。」

(4) 七・〇八(i)【注】を次のように改める。

(傍線部分が改正箇所)

「たとえば、一ゴロを打った打者が一塁手の触球を避けようとして、側方に離れて走らないかぎり、逆走するようなことはさしつかえないが、本塁に達するとアウトになる。」

二〇〇四年二月三日

以上